



町会と地域活動団体との意見交換会

町会・自治会の高齢化が進む昨今、担い手不足の解決策としてNPOとの連携に期待が高まる中、品川区で初の試みとして両者の意見交換会が行われました。

区内の町会長5名とNPO等の地域活動団体13団体20名が集う会議室には、初めこそ若干の緊張感がありましたが、町会の課題にNPOが協力できそうなことを提案し、連携の可能性を探っていくにつれ、次第に打ち解けて和やかな雰囲気が進んでいきました。



町会とNPO、それぞれ目的や考え方は異なれど、「地域を良くしていきたい」という共通点を持つ両者。今後、それぞれの強みや持ち味を生かした新たなつながりを模索する上で、お互いへの理解を深めるきっかけとなりました。

[令和6年2月2日(金)午後 きゅりあん6階 中会議室]



令和5年度 区民活動助成採択団体による成果報告会

各団体からの実績や反省点についての発表に対し、採択事業に伴走したNPO法人NPOサポートセンターと、審査をした地域振興基金活用推進会議の方々が講評をするという形で進行しました。終了後も、区職員や区民など、聴講に来ていた方々を含めて盛んな交流が行われました。

[令和6年2月2日(金) 午前 きゅりあん6階 大会議室]



採択事業の概要は
しながわすまいるネットを
チェック



NPO法人 NPO サポートセンターからの講評

活動を進めるにあたっては、「この事業は、団体のビジョン・ミッションの達成=地域課題の解決に本当に寄与するものなのか」ということを繰り返し問い続けることが必要です。今回報告を行った団体は、どの団体も事業を通して地域をリサーチしたり、人材・資金などのリソースを集めたり、多様な主体との連携・協働を進めたりしながら、組織基盤を整えて事業を実施しており、着実にステップアップしていることが伺えました。

かつてのようなつながりが途絶え、地域の運営は厳しい状況にあります。区民活動団体が活性化することで、地域にきめ細かな支援が増え、人々が安心して暮らしやすくなります。活動成果が広く区民に知られることにより、地域に新たな支援団体や賛同の輪が広がっていけばと思います。

(NPO法人 NPO サポートセンター)

※NPO法人 NPO サポートセンターは品川区から地域活動に関する相談支援事業を受託しています。
下記連絡先にお気軽にお問い合わせください。



助成期間のそのあとは？

「地域振興基金を活用した区民活動助成」の期間は最長3年間。
その先の活動について、2つの団体にお話を伺いました。



① 一般社団法人 モノづくりXプログラミング for Shinagawa 理事 山下 聖さん

助成事業(令和3・4年)

オンライン配信と対面のどちらでも参加可能な
イベントの運営について、地域団体を対象に体験
学習型の研修会を実施。



助成以前と変わったこと

以前は区役所との連携があまり出来ていなかったのですが、助成の申請以降、積極的にコミュニケーションが取れるようになりました。また地域活動課協働推進係に紹介をいただき、他団体や企業との連携が広がりました。



助成を受けた事業の現状

オンライン配信については、助成を受けた際の学びから「やりかたを教える」という形式を「運営を支援する」という形式に変更しました。結果、より多くの団体からお声掛けをいただけるようになりました。以前から運営を手伝っている若者たち※は、今では事業の中核メンバーとして活躍しています。今後はかれらの活躍の場をさらに広げるため、新規事業(資料電子化サービス)の立ち上げを行っています。

※一般社団法人子ども若者応援ネットワーク品川が運営するフリースペースに通う若者たちと、オンライン配信支援チーム「おはモフしながわ」を結成



助成以後の協働について

助成以降、20を超える団体との連携が新たに始まっています。中でも立正大学さんと開催した小学生向けSDGsイベントや、青野工業さんと企画立案から一緒にリサイクルプラ製品など、今までなかった新しい取り組みを行っています。なお、現在助成を受けている団体の技術支援も行っています。



しながわ地域貢献活動展にて青野工業とブース出展した様子

一般社団法人
モノづくりXプログラミング
for Shinagawaのホームページ





助成期間のそのあとは？



② NPO法人 そとぼ一よ 代表理事 本道 良子さん

助成事業（令和元～3年）

文庫の森公園で「屋外型親子ひろば」を開催。自然と関わる外遊びを通して乳幼児の自己肯定感を育むとともに、保護者の相談を受ける子育て支援も行う。



助成以前と変わったこと

地域の方や公園の管理の方々、温かく受け入れてくださるようになりました。品川区の応援があったことで信頼されたことが、大きかったと思います。



助成を受けた事業の現状

地域に受け入れて頂いたと感じられたことで、安心して活動を続けることができました。荏原地区外遊びモデル推進事業の「あそびの出前」が新たに始まるなど、活動範囲は広がっていますが、乳幼児親子にとって、家の近くで近所の方に見守られながら子育てできる環境はかせません。



最近子ども達の声をしっかり聴いて届けることもとても大切な役割だなと感じています。やりたいこと、やらなければならないことは沢山ありますが、地域の方と一緒に活躍したり、子ども達のために、新しくはじめたい!と思う方々の応援をしたり、輪を広げながら、子ども達、そして大人にとっても、楽しめる、安心してありのままでいられるまちづくりを目指していきたいです。

助成以後の協働について

文庫の森公園近くに拠点を構えているNPO法人ウーヴさんに、月1回の読み聞かせをお願いしています。お互いの活動を行き来する親子も増えており、いい関係が築けています。



NPO法人そとぼ一よのホームページ

